

第11次中期経営計画 2022.4 – 2025.3

2022年5月13日

岡谷電機産業株式会社

(東証スタンダード市場)

1. 第11次中期経営計画の全体像

『ノイズ・サージ対策のパートナー』としての地位の確立

強みを活かした既存事業の強化

EMC対策*を
軸とした
持続的成長

安定収益基盤の確立に向けた
事業ポートフォリオの再構築

成長分野での堅固な
基盤となる製品群の拡充

技術基盤の確立

生産能力の拡大
生産性向上

コスト構造改革

組織運営の変革 / サステナビリティに関する取組の推進

*EMC : Electromagnetic Compatibility 電磁両立性を表し電磁ノイズとも総称されます

2. 基本方針

コア事業の「EMC対策」を軸とした持続的成長

《基本戦略1》当社の強みを活かした既存事業の強化

- ・ ノイズ・サージ対策で培った技術力を基に、デバイス及びモジュール化した製品の拡充・多様化を推進
- ・ 各種ソリューション提案の強化により、既存事業の質的強化を図る

EMC対策ソリューション

雷サージ ソリューション

ソリューション

測定・診断ソリューション

モジュール

- ・ ノイズフィルタ
- ・ 高周波フィルタ
- ・ サージプロテクタ
- ・ ノイズ・サージ複合品

デバイス

- ・ フィルムキャパシタ
- ・ コモンモードコイル
- ・ サージアブソーバ

2. 基本方針

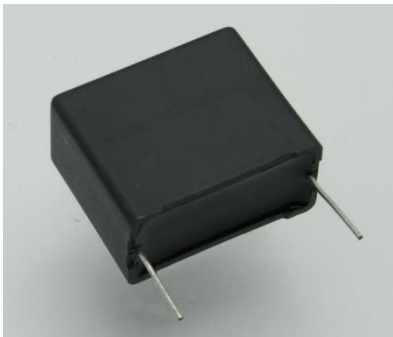
コア事業の「EMC対策」を軸とした持続的成長

《基本戦略2》

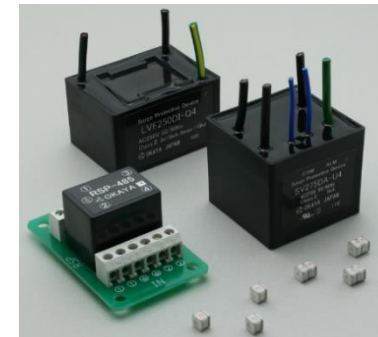
安定的収益基盤の確立に向けた事業ポートフォリオの再構築

- 電源基盤、配電盤を中心に『コンデンサ製品』『ノイズ・サージ対策製品』一体での製品戦略を強化
- シナジーを最大限発揮し、コアとなる2つの事業ポートフォリオの成長力を一体的に引上げ

コンデンサ製品



ノイズ・サージ対策製品

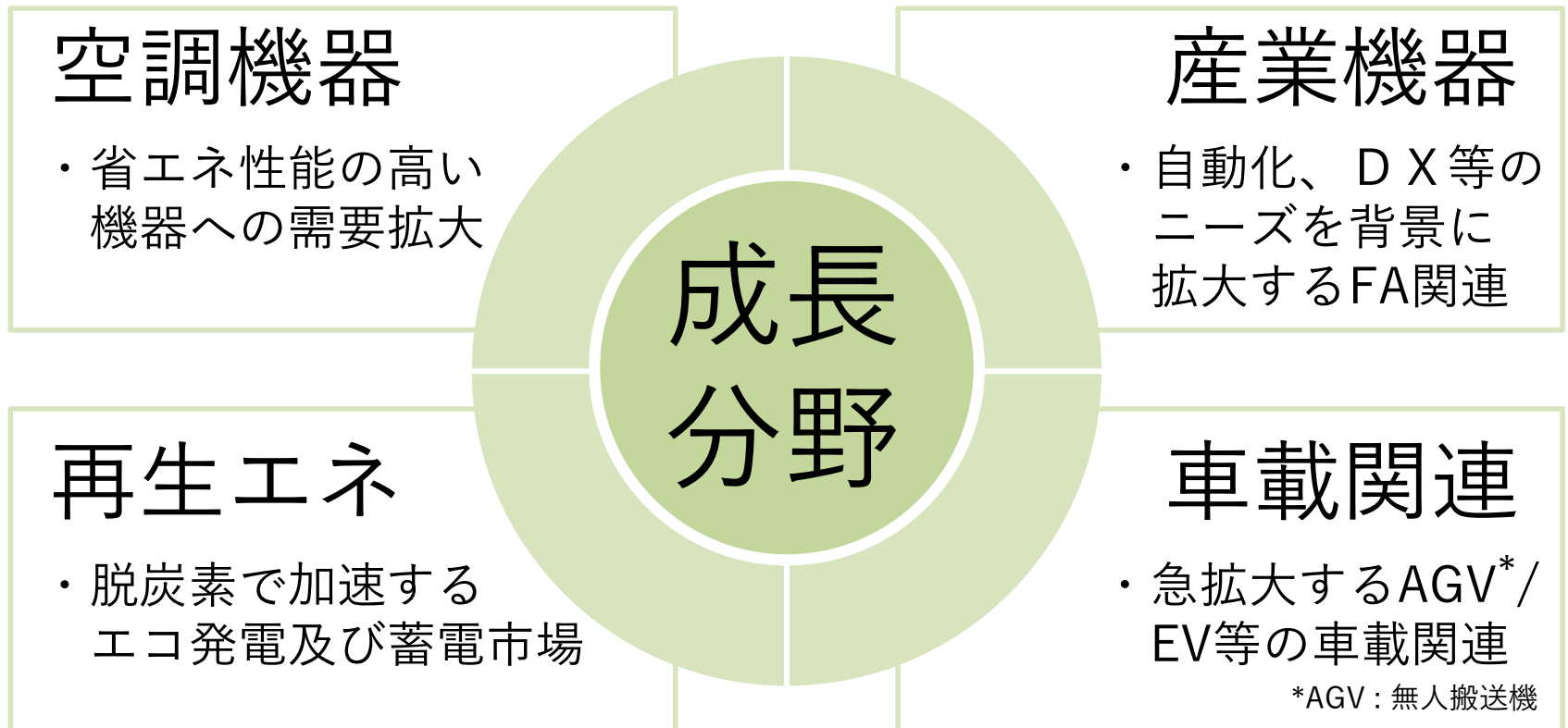


2. 基本方針

コア事業の「EMC対策」を軸とした持続的成長

《基本戦略3》成長分野での堅固な収益基盤となる製品群の拡充

- 多様な分野における様々な用途での実績を積み上げ、成長基盤を確立
- 車載関連分野への参入に向け、引き続き技術基盤を強化



3. 重点課題

基本戦略を着実に推進し、EMC対策を軸とした持続的成長を実現するための重点課題を着実に実行

1	技術基盤の確立	<ul style="list-style-type: none">・ 多様化する使用環境、高信頼性要求に応える製品開発力の強化・ EMC対策関連の技術力、ノウハウの強化
2	生産能力の拡大・向上	<ul style="list-style-type: none">・ 自動化、IoT化の加速による生産ライン高度化・ 生産管理、品質管理機能の強化
3	コスト構造の改革	<ul style="list-style-type: none">・ 調達環境激変を踏まえたサプライチェーンの再構築及び購買機能の強化・ 多岐にわたる原価改善の推進

3. 重点課題

中長期的な企業価値向上に向け、経営基盤の強化に資する重点課題を着実に実行

4

組織運営の変革

- ・ 事業を軸とした組織運営を強化し、開発～生産～販売に至る戦略を一気通貫で推進
- ・ 人的資本への投資、ダイバーシティを推進し人材力を強化

5

サステナビリティに関する取組の推進

- ・ 環境負荷低減に配慮した製品の提供
- ・ 生産性向上、効率化推進による温室効果ガス排出量削減

4. 経営指標・株主還元

■ 経営指標

	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	140億円	144億円	148億円
営業利益	1億円	5億円	7億円
純利益	0.7億円	3.5億円	5.0億円
R O E	1.0%	4.5%	6.0%

■ 株主還元

第11次中期経営計画の推進により収益力の回復を図り、将来の事業展開や成長に向けた戦略的な投資、財務体質の強化に必要な内部留保を確保しながら、配当性向30%を基準に安定した配当の実施を目指す。

免責

本資料に含まれる業界の動向や分析・今後の見通し・施策等は、その時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。実際の業績等が様々な要因により異なる可能性があります。

(連絡・お問合せ)
岡谷電機産業株式会社
経営企画室
電話：03-4544-7000